

Nikon

NIKKOR

NIKKOR Z DX 12-28mm f/3.5-5.6 PZ VR

活用ガイド

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(4 ページ) も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるようにしてください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**

© 2023 Nikon Corporation

SB3E01(10)
7MM02110-01

Jp

目次

はじめに	4
ご使用の前に.....	4
安全上のご注意.....	5
レンズの使い方	8
各部の名称と機能.....	8
カメラへの取り付け方・取り外し方.....	12
レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方.....	15
パワーズームについて.....	17
手ブレ補正機能.....	19
撮影時のご注意.....	20
取り扱い上のご注意.....	21
お手入れについて.....	22
資料	23
カメラの AF 補助光を使用するときのご注意.....	23
内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときのご注意.....	24
アクセサリ.....	25
仕様.....	26
サービスとサポート	28

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内.....	28
ニコンイメージングサポートページのご案内.....	29

はじめに

ご使用前に

ご使用前に本書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、カメラの説明書もご覧ください。

- このレンズは、ニコン Z マウントのミラーレスカメラ専用です。
- カメラのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアが最新になっていない場合、レンズを正しく認識しなかったり、機能の一部が使用できないことがあります。最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

本書をお読みになった後は、いつでも参照できるようにしてください。



警告 「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。











注意 「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。

	してはいけない内容です。
	分解、修理または改造してはいけない内容です。
	人体やものに密着させてはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

 **警告**

	<p>分解、修理または改造をしない 落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない 感電やけがの原因になります。</p>
	<p>熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちにカメラの電源を取り外す 放置すると、発火、やけどの原因になります。</p>
	<p>水でぬらさない ぬれた手で触らない 感電や発火の原因になります。</p>
	<p>引火、爆発のおそれのある場所では使わない プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。</p>
	<p>レンズで直接太陽や強い光を見ない 失明や視力障害の原因になります。</p>
	<p>幼児の手の届くところに置かない 故障やけがの原因になります。 小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。 <u>飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。</u></p>
	<p>ストラップ類を首に巻きつけない 事故の原因になります。</p>
	<p>高温環境や低温環境では、直接触らない やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。</p>



注意



レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。



夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない

故障や発火の原因になります。



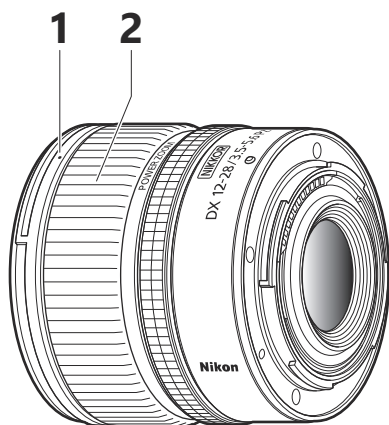
三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない

故障やけがの原因になります。

レンズの使い方

各部の名称と機能

各部の名称と機能は以下の通りです。



1 レンズフード着脱指標

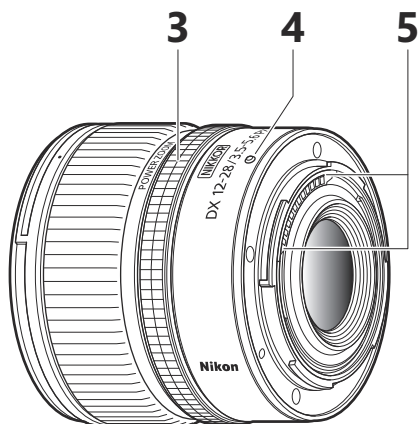
レンズにレンズフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方」](#) (p.15)

2 ズームリング

このリングを回転させるとズーミングができます。

📖 [「パワーズームについて」](#) (p.17)



3 コントロールリング

・オートフォーカス時

このリングを回転させると、[フォーカス (M/A)] や [絞り] などカメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている [カスタムボタンの機能] または [カスタムボタンの機能 (撮影)] の説明をご覧ください。

・マニュアルフォーカス時

このリングを回転させると手動でピント合わせができます。

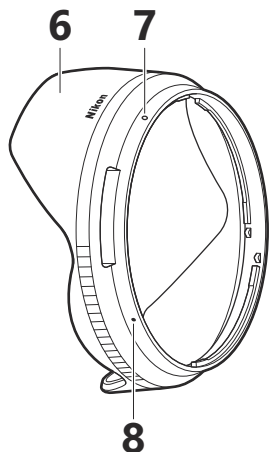
4 レンズ着脱指標

カメラにレンズを取り付けるときの指標です。

📖 [「カメラへの取り付け方・取り外し方」 \(p.12\)](#)

5 CPU 信号接点

カメラとレンズの間で情報を伝達します。



6 レンズフード*

画像に悪影響を及ぼす光線を低減します。レンズ面の保護にも役立ちます。

* レンズフードは別売です。

📖 [「レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方」](#) (p.15)

7 レンズフードセット指標

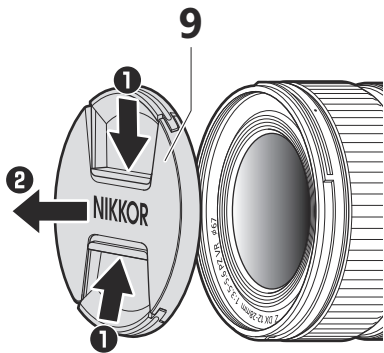
レンズにレンズフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方」](#) (p.15)

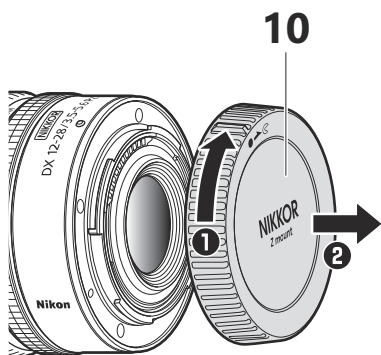
8 レンズフード取り付け指標

レンズにレンズフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方」](#) (p.15)



9 レンズキャップ (フロントキャップ)

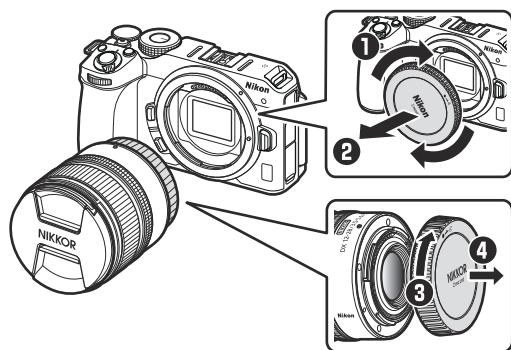


10 レンズキャップ (リアキャップ)

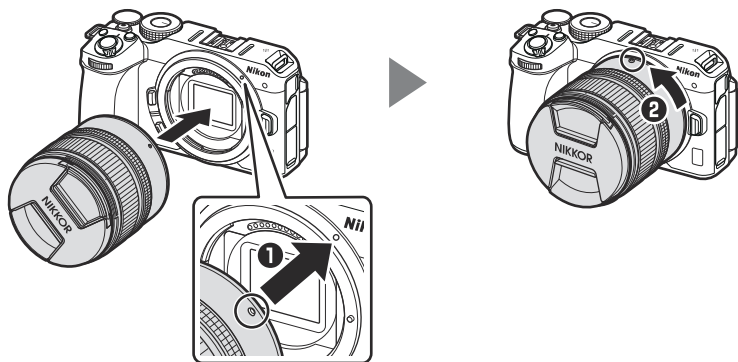
カメラへの取り付け方・取り外し方

取り付け方

1. カメラ本体の電源を OFF にして、カメラ本体のボディーキャップとレンズのリアキャップを外す



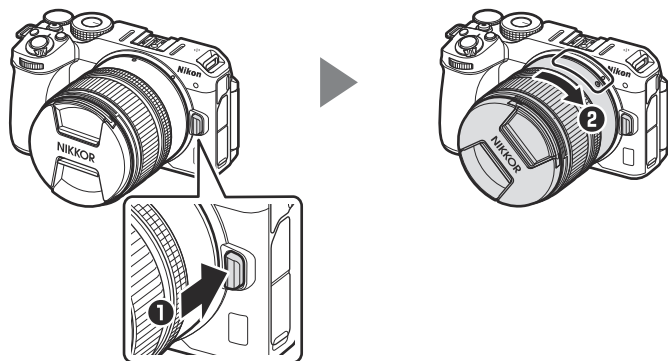
2. カメラ本体とレンズのレンズ着脱指標を合わせ（①）、矢印（②）の方向にカチッと音がするまでレンズを回す



取り外し方

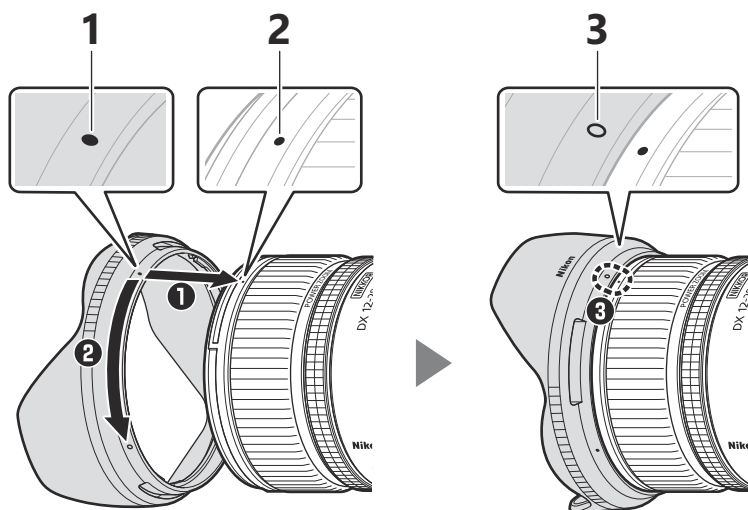
1. カメラの電源を OFF にする

2. レンズ取り外しボタンを押しながら (①)、矢印 (②) の方向にレンズを回して取り外す



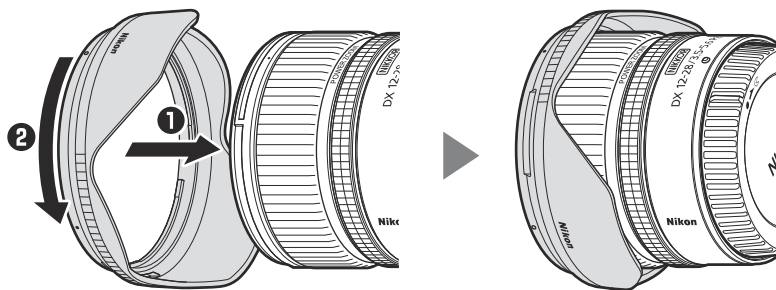
レンズフード（別売）の取り付け方・取り外し方

- レンズフード取り付け指標とレンズフード着脱指標を合わせて **(1)**、レンズフードを矢印 **(2)** の方向に回転させ、レンズフード着脱指標とレンズフードセット指標を合わせてください **(3)**。

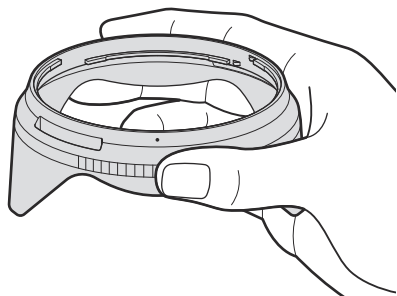


- 1 レンズフード取り付け指標
- 2 レンズフード着脱指標
- 3 レンズフードセット指標

- レンズフード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、レンズフード取り付け指標（●）付近を持って回転させてください。
- 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。
- 収納時はレンズフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。



✓ 収納時のレンズフードの持ち方について

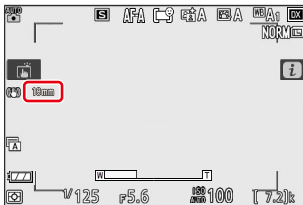


収納時は、レンズフードのすべり止め部分に沿って指全体で軽く持ち、カチツと音がするまで回転させて取り付けてください。

パワーズームについて

このレンズはズームリングを回転させると電動でズーミング（パワーズーム）を行います。

- ・ズームリングを回転させる以外にも、パワーズームに対応しているカメラに装着している場合は次の方法でズーミングを行えます。
 - カメラでパワーズームの機能を割り当てたボタンを押す。
 - カメラに接続したりモートグリップ MC-N10 で、パワーズームの機能を割り当てたボタンを押す。
 - カメラの **Q** ボタンおよび **Q** ボタンにパワーズームの機能を割り当てた状態で、カメラに接続したりモコン ML-L7 で +/- ボタンを押す。
 - パワーズームの操作に対応したニコン製のソフトウェアまたはアプリで操作する。
- ・パワーズームに対応しているカメラに装着している場合、次の設定や表示が可能です。
 - ボタン操作でパワーズームするときの、ズーミングの速度を設定できます。
 - カメラの電源を OFF にして再度 ON にした場合に、ズーム位置を電源 OFF の前と同じ位置に保持するかどうかを設定できます。
 - カメラの撮影画面に焦点距離が表示されます。



画面は Z 30 の例です。

- ・動画記録中にズーミングを行うと、レンズの動作音が記録されることがあります。音が気になる場合は、ズームリングをゆっくり回してください。ボタン操作でパワーズームする場合は、ズーミングの速度を低速に設定することをおすすめします。

- 詳しい設定方法や操作についてはカメラの説明書や、ソフトウェアまたはアプリのヘルプをご覧ください。
- カメラのファームウェアや、ソフトウェアまたはアプリは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

手ブレ補正機能

このレンズには手ブレ補正機能があります。手ブレ補正機能はカメラで設定できます。詳しくは、カメラの説明書をご覧ください。

手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べてシャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

✓ 手ブレ補正機能について

- 手ブレ補正機構の構造上、レンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。
- 三脚撮影時にカメラの手ブレ補正機能を〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定すると、三脚ブレを軽減します。ただし、三脚の種類や撮影条件により、〔**しない**〕にした方がよい場合があります。
- 一脚を使用するときには、〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定することをおすすめします。

撮影時のご注意

- FX フォーマットのカメラに取り付けた場合は、以下の制限があります。
 - 撮像範囲が DX フォーマットになり、FX フォーマット対応レンズ装着時よりも記録画素数およびフォーカスポイントが少なくなります。
 - セットアップメニューの「**イメージダストオフデータ取得**」は使用できません。
- Z 6 に取り付けた場合、動画撮影メニュー「**画像サイズ/フレームレート**」で 1920×1080 120p、1920×1080 100p または 1920×1080 スローを選ぶと、以下の設定で撮影されます。
 - 1920×1080 120p → 1920×1080 60p
 - 1920×1080 100p → 1920×1080 50p
 - 1920×1080 30p 4 倍スロー → 1920×1080 30p
 - 1920×1080 25p 4 倍スロー → 1920×1080 25p
 - 1920×1080 24p 5 倍スロー → 1920×1080 24p

取り扱い上のご注意

- レンズキャップやレンズフードだけを持って、レンズやカメラを持ち運ばないでください。
- CPU 信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズをカメラに装着していないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。
- レンズを水にぬらしたり、湿気の多い場所に置かないでください。部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。
- レンズを火の近くなど、極端に温度が高くなる場所に置かないでください。レンズが変形することがあります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所、または暖かい場所から寒い場所に持ち込むと、レンズ内外に水滴が生じて故障の原因となります。温度差のある場所にレンズを持ち込むときは、あらかじめレンズをバッグやビニール袋などに入れて密閉してください。レンズが周囲の温度になじんだら、袋から取り出してお使いください。
- レンズを傷から守るために、持ち運ぶときは別売のレンズケースに入れることをおすすめします。
- カメラやレンズにクレジットカードなどの磁気製品を近づけないでください。記録内容が壊れることがあります。

お手入れについて

- レンズ面を清掃する場合、通常はほこりを払う程度にしてください。
- レンズ面に指紋など油分を含む汚れがついたときは、少量の無水アルコール（エタノール）や市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーを使って、レンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。その場合、拭きムラや拭き残りがないように注意してください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐには、別売のニュートラルカラー NC フィルターなどの使用をおすすめします。
- レンズを保管するときは、太陽光のあたるところや防虫剤のあるところを避けてください。また、レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。

資料

カメラの AF 補助光を使用するときのご注意

AF 補助光搭載のカメラの場合、AF 補助光がレンズやレンズフードでさえぎられることがあります。

- カメラの AF 補助光を使って撮影するときの制限についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときの注意

内蔵フラッシュ搭載のカメラの場合、フラッシュの光がレンズやレンズフードでさえぎられると画像に影が写り込みます。レンズフードは取り外して撮影してください。レンズフードを取り外しても、撮影距離または焦点距離によっては影が写り込みます。

- 内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときに影が写り込まずに撮影できる撮影距離と焦点距離についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

アクセサリ

付属アクセサリ

- レンズキャップ LC-67B (フロントキャップ)
- レンズキャップ LF-N1 (リアキャップ)

使用できるアクセサリ

- レンズフード HB-112
- レンズケース CL-C4
- 67 mm フィルター

フィルターを使用する場合

- フィルターは1枚で使用してください。
- フィルターは、レンズフードを取り外してから装着してください。また、円偏光フィルターの偏光効果の調節も、レンズフードを取り外した状態で行ってください。

仕様

マウント	ニコン Z マウント
焦点距離	12 mm - 28 mm
最大口径比	1 : 3.5 - 5.6
レンズ構成	11 群 12 枚 (ED レンズ 1 枚、非球面レンズ 1 枚)
画角	99° - 53° (撮像範囲 DX)
フォーカシング方式	IF (インターナルフォーカス) 方式
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
最短撮影距離	撮像面から 0.19 m (ズーム全域)
最大撮影倍率	0.21 倍
絞り羽根枚数	7 枚 (円形絞り)
絞りの範囲	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離 12 mm 時 : f/3.5 - 16• 焦点距離 28 mm 時 : f/5.6 - 25 * カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。
アタッチメントサイズ	67 mm (P=0.75 mm)
寸法(最大径×レンズマウント基準面からレンズ先端まで)	約 72 mm × 63.5 mm
質量	約 205 g

- 本書では、35mm 判カメラに準じた画角（フルサイズ）を「FX フォーマット」または「FX」、APS-C サイズに準じた画角を「DX フォーマット」または「DX」と表記しています。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

サービスとサポート

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンイメージングサポートページのご案内

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。



<https://www.nikon-image.com/support/>



A series of 20 horizontal lines spaced evenly down the page, providing a template for handwriting practice.